

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット / 1階)

事業所番号	2791000157		
法人名	株式会社のだか		
事業所名	グループホームのだか西淀川		
所在地	大阪市西淀川区大和田5-21-7		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たち「のだか西淀川」は、ご利用者が今まで歩んでこられた生活や、人との繋がりを大切にする介護を実践しております。のだか西淀川は新型コロナ流行の中での令和2年5月1日の開設でした。コロナへの不安や、入居者様の新しい生活への不安、入居者様や家族様はたくさんの不安を抱えられたと思います。そんな中、「どうすれば入居者様と家族様は不安にならないか」を毎日考えることになりました。レクリエーションを通し、他入居者様との馴染みの関係を築ける機会を作り、その日常の様子を家族様にお伝えする為に毎月、新聞という形で家族様にはお送り致しております。また、入居者様とご家族様がコロナ流行時や遠方の家族様でもお話しできるように、オンライン面会(ビデオ通話)ができるように環境整備も行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪府下12ヶ所、東京都2ヶ所にグループホームを運営している㈱のだかを事業母体とする当事業所は2020年5月に開設された。事業所周辺は幼稚園・寺・神社・公園が点在し閑静な住宅街に位置して、外出規制や地域交流自粛の現状だが利用者は穏やかで安心した生活を営んでいる。日々の生活に楽しみ事や身体を動かすような様々なレクリエーションに力を注ぎ、手作り紙芝居(昔話を中心)季節行事(敬老会・夏のスイカ割り・クリスマス会等)、懐かしい物語のDVDを流し、風船パレー体操等を取り入れている。法人作成の自己チェック表で接遇マナー、業務・書類・マニュアルの理解度、身だしなみ、職員関係等について職員夫々が振り返り自己研鑽に努めている。6ヶ月に1度のランクアップテストが実施され、職務体制の向上や給与に反映されると共に職員のグレードアップとケアの質の向上に繋げ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族・地域との交流を図り共に支えあい、その方の人生の物語を尊重します。また、安心して笑顔で過ごせるよう生活を共にするケアパートナーとして寄り添う介護を提供します。」という理念をむねに日々の業務に実践できるよう努めております。母体独自の理念と同じく事業所独自の理念を掲げ、日々の業務に実践できるよう努めています。	法人理念を事務所に掲げ朝礼時に唱和している。理念の中にある一人ひとりのこれまでに培った生活を大切に、家庭的な雰囲気の中で安心して笑顔で過ごせる介護の具現化に取り組んでいる。コロナ禍中で地域の交流が難しく又事業所独自の理念作成が課題となっている。	事業所独自の理念を策定されるのであれば、その人らしい生活支援のあり方や、幅広い地域交流で日々の暮らしの充実を目指した取り組み内容が具現できるような文言を全員で話し合い作成することに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ発生により実施できず。	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得ている。コロナ禍中での事業所設立で規制が多い現在は、地域交流は自粛している。今後季節行事や楽しみ事に、ボランティアの受け入れや近隣の散歩・買い物を行い地域中での生活の活性化を推し進めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の実践を通し認知症介護高齢者の方への理解や支援、応対方法等について少しでも地域の皆様に活かして頂ける様に働きかけている。また包括支援センターや運営推進会議等でもご相談があれば窓口となり随時、施設見学などの対応もさせて頂いております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターからご利用者の紹介を頂いたり、日常での支援でアドバイスを頂いたりしております。	コロナ禍で対面しての運営推進会議の開催は無く、書面会議開催(年6回)をしている。事業所の現状・運営・行事報告を行い、会議前に課題や意見を参加メンバーから収集してケアに活かしている。議事録を民生委員・地域包括支援センターに送付し、今後家族にお便りと一緒に郵送することを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常の中でわからない事や確認が必要な事項につきましては、地域包括支援センターや区役所・市役所と連絡を取らせて頂き対応しております。	西淀川区の保健福祉課の窓口から、事業所開設時の諸々の手続きやアドバイス・指導・情報を得ている。公的扶助受給者(12名)の書類手続き等についてケースワーカーから助言を得て連携を密に行っている。介護相談員の訪問(年3回)があり利用者の意見・要望の傾聴の協力が有り、ケアの充実に繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的を実施している社内研修を通し日頃から全職員が正しく理解、実施できるように取り組んでおります。	身体拘束適正化指針文書を整え、身体拘束の研修や毎月の適正化委員会を通して、内容と弊害の理解に努めている。言葉遣いの不適切な場合は、管理者がその都度周囲に配慮しながら注意を促すと共に、適正化委員会で日頃のケアでの事例検討を行い改善に努めている。安全面に配慮してエレベーターはナンバーロック式の開錠で玄関も施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に全職員が理解し、定期的に研修を行っている。また発見した場合はすぐに報告するよう周知徹底しております		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的を実施している社内研修会で学習する機会を設け、全職員の理解を深め、今後も必要に応じて活用の検討をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度説明を丁寧に実施しております。十分なご理解が頂けるようにゆっくりと時間をかけて確認をしながら2名の管理者で対応しております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しアンケート用紙も常設する事により意見を聞きやすくさせて頂いております。	利用者には日頃のケアで耳を傾け、家族には訪問時や電話対応の際に意見を聞き、話しやすい環境を整えている。親族の告別式参加希望の人には家族同行で対応し、直近の入居者でマッサージを受けたいとの要望に対しては、訪問マッサージ対応機関と交渉している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的実施しておりますスタッフ会議及び各フロア会議において意見や提案を聞いております。	毎月のスタッフ会議や各フロア会議(随時)で活発な意見や提案がある。懸案事項については話し合いと検討を行い、全スタッフが納得の上、実施することになっている。ペースト状やミキサー食から形態を保ったムース食の摂り入れや、季節の衣類交換時に枚数が少ない人には家族の連絡を取る事等、様々な意見・気づきに即対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が何かしらの役割を担ってもらっている。法人全体でランクアップ制度を設けたり、処遇改善等を利用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修にてランクアップ制度や研修を行い、より上のレベルに挑戦が出来る仕組みをつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ発生により実施できず。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをより深く実施することにより本当に本人が望んでいる事に対応できるように取り組んでおります。本人の事を理解して信頼関係を築くことが出来る様努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報収集を行い家族様とも話をさせて頂く機会を可能な限り多く設け、家族様の意向や要望を聞き取り、信頼ある関係を維持できるよう努めております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談時に他のサービス利用の事もお話をさせて頂き、その中でグループホームの利用が最適との結論に至った場合にご利用して頂いております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の味見や洗い物、片付けなどを共に行ったり、清掃を職員と共に行っている。職員が忙しくしているとキッチンの片付けやゴミ集めを積極的にしてくれており、共に過ごし支え合う関係はできています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会があれば、近況を報告しながらコミュニケーションをとるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から馴染まれた物品等は可能な範囲で持参して頂いております。可能な限りこちらからもアプローチを掛けて双方がお話できる時間を設け、関係を途切れないよう支援しております。	緊急事態宣言解除後から友人・知人・家族の訪問を予約制で最大2名の15分枠で、居室で面会を実施している。電話の取次ぎや手紙のやり取りを支援し、コロナ沈静後は馴染みの店や美容院・地元の駅周辺への外出の支援と、馴染みの人の面会の時間・場所の範囲を広げこれまでの馴染み関係の継続支援強化を進めたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活であるメリットを活かし、職員が間に入る事によって入居者様同士の良好な関係作りにも対応させて頂いております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	救急搬送後、体調が戻らず長期入院により退去を余儀なくされた場合でもお見舞いに行かせて頂いたり、回復された場合に家族様が望まれる場合は戻って来て頂けるよう対応させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント及び介護計画によりそれぞれに応じた、本人を主とした個別な対応を心掛けております。	入居時に聞き取ったアセスメントシートを基に日頃の会話で把握し、1対1の入浴時や夜間時の落ち着いた時間帯に、好きなこと・嫌なこと・暮らし方の要望等の本音を聞く機会がある。把握した情報は申し送りノートに記入し全体で共有して計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の情報を家族様、親戚の方等より少しでも多くの情報を入手して、本人の介護に活かす事が出来る様に取り組んでおります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記同様に取り組んでおります。また日々様子[(表情や食欲や体調管理等)をしっかりと察知することが出来るよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を中心にして、定期的を実施しているケアプラン会議にてモニタリング等を通じて入居者及び家族様の意向や思いを重視して各職員が日々ケアで関わる中でその意見を反映した形で介護計画を作成させて頂いております。	生活記録・日報・申し送りノート・医療申し送りノートを参考に毎月のモニタリングでケア内容の問題点・課題を検討している。計画作成前の担当者会議や随時のカンファレンス会議で個々の身体・精神状態を話し合い、現状に即した計画作成を3ヶ月毎行っている。計画書は家族に郵送し、内容を電話で伝えて同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録への記録やケアプラン会議にて情報の共有を行い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を大切にしながら、サービスの向上に人員配置の許す限りで取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ発生により実施できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部の医療機関を協力機関として月2回の往診を受けている。 協力医療機関以外を受診している利用者に対しても適切な医療が受けれるように努めている。	従来のかかりつけ医の眼科に通院している1名には(4カ月に1回)職員が同行して受診している。協力医療機関からの往診は内科(月2回)、歯科(週1回)、眼科(月1回)であり、希望者が受診している。週1回巡回する法人所属の看護師と協力医(24時間オンコール)の看護師による健康管理や外部受診の際に持参する医療申し送り書の受診管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護職員を配置しているため、24時間連絡体制を取っている。随時連携を取り、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、病院とご家族に連絡をし、病状の把握と早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に「重度化した場合の対応に係る指針」と「急変時の対応について事前意思確認書」を提示の上、説明し事業所でできることは伝えている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」の文書で説明を行い同意を得ている。状態の変化時には医師からの説明と「急変時の対応について事前確認書」を示し看取り体制を整えている。ターミナルケアの研修で職員が(心構え、対応の仕方、精神的ケア)について習熟し、これまでに3名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	チェックシートを活用し、取り組んでいる。また、定期的に研修の中で行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回避難訓練を行っている。利用者にも参加をしてもらっている。	法定の年2回の災害訓練は日中・夜間想定で消防署立ち合いのもと(利用者も参加)行うと共に火災時の通報訓練は自主訓練で行っている。ハザードマップの福祉避難所が200m先の専門学校となっているが、避難のための移動の困難が予想される。水・食料、コンロ、ラジオ、懐中電灯を2階のフロアに準備している。	事業所は海拔0.3mの低地にあり、海や川に近接している。地震や台風等の風水害の訓練が行われず、地域との協力の呼びかけや連携体制も不十分である。あらゆる災害を想定した訓練実施と地域の協力体制構築を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に配慮させて頂いており、皆様が快適に生活できるように支援させて頂いております。また定期的実施しているスタッフ会議の場でも周知徹底させて頂いております。	法人の年間研修で言葉遣いは`です・ます`口調としている。利用者は全員がさん呼びで統一して、ケア時には上から目線にならないように目線を合わせて、トイレ誘導時には耳元で小さな声で行うなど周りの利用者にも配慮しながらの支援を行っている。職員はチェックシート(ケアについての是非)記録し振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が理解できる表現での問いかけや雰囲気作りを行い、ご自身の意向や思いを確認して聞き出せるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲でその方のペースで生活して頂けるよう、取り組みをさせて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容で本人やご家族に好みやこれまでの習慣などを聞きながら、少しでもその方らしい身だしなみやお洒落ができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と献立は外部の業者より納品され、各階の職員が利用者の状態に合わせて調理している。	献立と食材は業者に委託し職員が交代で調理を行っている。季節の行事食には献立を変更して食材購入をして調理をし、好みのうなぎを提供したりしている。おやつレクリエーションを毎月行い、たこ焼・ホットケーキを焼いて楽しんでいる。利用者は盛り付けやテーブル拭き、洗い物など生活リハビリの一環として手伝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量の記録を生活記録に記載し把握している。決められて時間以外にも対応するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 。	食後の口腔ケアと利用者、ご家族の希望により週1回の歯科往診による口腔ケアを提供している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録で排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないよう、一人一人に合わせた声掛け、見守りを行っています。	排泄は人として尊厳に関わる大切なこととして捉え、排泄状態を記した生活記録を活用し、失敗があっても出来る限りトイレでの排泄の支援を行っている。利用者は布パンツ(3名)おむつ(3名)リハビリパンツ(21名)と使用状態は様々だが全員が日中はトイレでの排泄を行っている。夜間は2, 3時間ごとの見回時に声かけをし、日中はリハビリパンツの人も夜間はおむつ使用で安眠を重視している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、定時に体操を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある方には入浴前の声かけに工夫をしたり入浴剤の使用で楽しんで頂けるように取り組んでいます。	入浴は週2回の午前中を基本とし、一人ひとり浴槽の湯を交換して白癬の人には毎日、足浴を行っている。2人介助者(1名)シャワーキャリー使用者(1名)で拒否の人には無理強いせず時間や日を変更して柔軟に対応している。ゆず・菖蒲湯の季節湯や入浴剤を使用して変化を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間にこだわらず、利用者の生活習慣に合わせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などの手伝いや季節のレクリエーション、誕生日会など利用者楽しんでもらえる時間の提供に努めている。紙芝居の導入を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ発生により実施できず。	事業所はコロナ禍の中で設立1年6ヵ月が経過したばかりで、現在、法人の方針ですべての外出支援が中止となっている。代替策として、職員手作りの紙芝居(歴史物語・昔話)に力を入れて利用者に喜ばれている。コロナ終息後は事業所近くの公園の散歩、地域のふれあい喫茶への参加等の外出支援を計画している。	コロナ禍での外出支援は法人の方針もあり困難な状態となっているが、近隣の公園に時間帯・天候を見極めながら散歩を推し進め、ホーム玄関先での日光浴で五感刺激やストレス解消の取り入れに期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理での問題を防止するために基本的に買い物等に出かけた場合、事後の清算で対応させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時や手紙を書かれた時等は出来る限りの支援をさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の管理、音楽等、その時々々の状況を見ながら対応させて頂いたり、入居者と話をしながら、心地よい環境・空間作りに取り組んでおります。また季節を感じて頂けるよう各フロアにて飾り付けをしております。	共用のリビングルームは広々とした空間で、ぬり絵、貼り絵、カレンダーが飾られ、2人掛けのソファでは利用者同士が仲良く楽しい会話の風景が見られた。コロナ禍の中で特にハイター消毒には力を入れ(フロア・トイレの手すり、玄関、エレベーターホール、ベッド柵等)手の触れる箇所を一日3回時間を決めて徹底的に消毒を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机、座席のレイアウト変更等によりその時の状況に応じて対応させて頂いたり、入居者と話をしながら、心地良い環境・空間作りに取り組んでおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具やテレビ、家族の写真、仏壇などを持ち込んでもらうなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	ベッド、防災カーテン、エアコン、高さのある洋服タンスが備え付けられ、利用者は仏壇、テレビ、化粧台、椅子等使い慣れた家具や小物・写真を持ち込んでいる。寝具はほとんどの人がレンタルで使用し、シーツ交換は定期的に行われている。居室に家族が描いた絵画を持ち込んでいる人もあり、その人らしい居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置をはじめ、安全を第一に考えながら、住環境の設備には注力させて頂いております。トイレや浴室がわかりやすいように標示をしている。		